

Clay Science誌についてのアンケート

趣旨: 日本粘土学会英文誌Clay Scienceは、J-Stageへの電子ジャーナル化に移行し、visibilityの大幅な向上を実現した他、ページチャージを導入することにより学会として英文誌発行事業における大幅な赤字の状況にはありません。しかしながら最近投稿論文数が少なく定期発行可能ぎりぎりの掲載論文数で発行をしており、久しく定期発行が危ぶまれる状態です。このような状況を脱するためには、Clay Science誌に掲載される論文の質の向上とそれに伴うスコーパス等へのインデックス登録が求められます。論文の質の向上は、いくつかの取り組みを相乗的に行わなければ達成できません。本件について令和元年第1回Clay Science編集委員会で議論したところ、インデックス登録のためには現状の数倍の論文投稿が2-3年続くことが必須であり、学会を挙げたキャンペーンが求められ、学会員に対しClay Science誌の存在意義について再認識してもらうためのアンケートをするべきという意見に集約されました。つきましては、学会員の皆様に標記アンケートを実施いたしますので、ご回答よろしくお願いいたします。

日本粘土学会 会長 山崎淳司

アンケートの概要:

目的: 学会員にClay Science誌の存在意義について再認識してもらう

対象: 日本粘土学会会員(学生会員含む)

方法: メールによる依頼・集約、無記名

実施時期: 3月末まで

結果の周知: 第64回粘土科学討論会

収集したデータは本目的以外には使用いたしません。

Google formによるアンケート文

1. 日本粘土学会の事業としての英文誌の発行について

説明（省略可）

(1) 日本粘土学会の事業として英文誌の発行を行う必要があると考えますか。 *

- ☐ ① 発行は必要
- ☐ ② 発行した方がよい
- ☐ ③ どちらでもよい
- ☐ ④ 発行は必要ない

(2) (1)で①あるいは②と回答された方に質問です。発行は必要/発行した方がよい理由をお答えください(複数回答可)。

- ☐ ① 英文誌の発行は学術団体としての重要な事業の一つであるため。
- ☐ ② 日本粘土学会会員の研究内容を世界にアピールできるため。
- ☐ ③ 会員に英文論文の発表の場を提供できるため。
- ☐ その他...

(3) (1)で③あるいは④と回答された方に質問です。どちらでもよい/発行は必要ない理由をお答えください(複数回答可)。

- ☐ ① 英文誌の発行は学術団体の事業としての優先度が低いため。
- ☐ ② Clay Science誌を維持するための労力的負担が見合わない。
- ☐ その他...

2. 学術雑誌を利用する立場からの英文誌の発行について

説明（省略可）

(1) 学術雑誌を利用する立場から見て、Clay Scienceの発行は必要ですか。 *

- ☐ ① 発行は必要
- ☐ ② 発行したほうがよい
- ☐ ③ どちらでもよい
- ☐ ④ 発行は必要ない

(2) (1)で①あるいは②と回答された方に質問です。英文誌が必要/あった方がよい理由をお答えください(複数回答可)。

- ☐ ① 論文を基にした発表/議論の場として有益。
- ☐ ② 組織・個人・プロジェクトの研究成果を生むために有益。
- ☐ その他...

(3) (1)で③あるいは④と回答された方に質問です。英文誌がどちらでもよい/必要ない理由をお答えください(複数回答可)。

- ☐ ① 関連論文誌はClay Science誌以外にもある。
- ☐ ② Clay Science誌に掲載されてもあまり評価されない。
- ☐ ③ ページチャージが必要であるため。
- ☐ その他...

3. Clay Science誌の利用について

説明（省略可）

(1) 著者として投稿したことがある著者として投稿したことがありますか。 *

- ☐ ① 投稿したことがある
- ☐ ② 投稿したことがない
- ☐ ③ わからない

(2) Clay Scienceに掲載されている論文を引用したことがありますか。 *

- ☐ ① 引用したことがある
- ☐ ② 引用したことがない
- ☐ ③ わからない

(3) Clay Scienceに掲載されている論文を読んだことがありますか。 *

- ☐ ① 良く読む
- ☐ ② 読んだことがある
- ☐ ③ 読んだことがない
- ☐ ④ わからない

(4) Clay Science誌はJ-Stageのオープンアクセスであることを知っているか *

- ☐ ① 知っていた
- ☐ ② 知らなかった

4. Clay Science誌のインデックス登録について

説明（省略可）

(1) Clay Science誌のインデックス登録に向けての取り組みを支持するか *

- ☐ ① 進めるべき
- ☐ ② どちらかと言えば進めるべき
- ☐ ③ どちらともいえない
- ☐ ④ 進める必要はない
- ☐ ⑤ わからない

5. Clay Science誌の将来について

説明（省略可）

(1) Clay Science誌の将来についてのご意見がありましたらお聞かせください。

記述式テキスト（短文回答）

(2) その他、ご意見がありましたらお聞かせ下さい。

記述式テキスト（短文回答）

Clay Science誌についてアンケートまとめ

対象:日本粘土学会個人会員

期間:2020年2月27日～5月21日

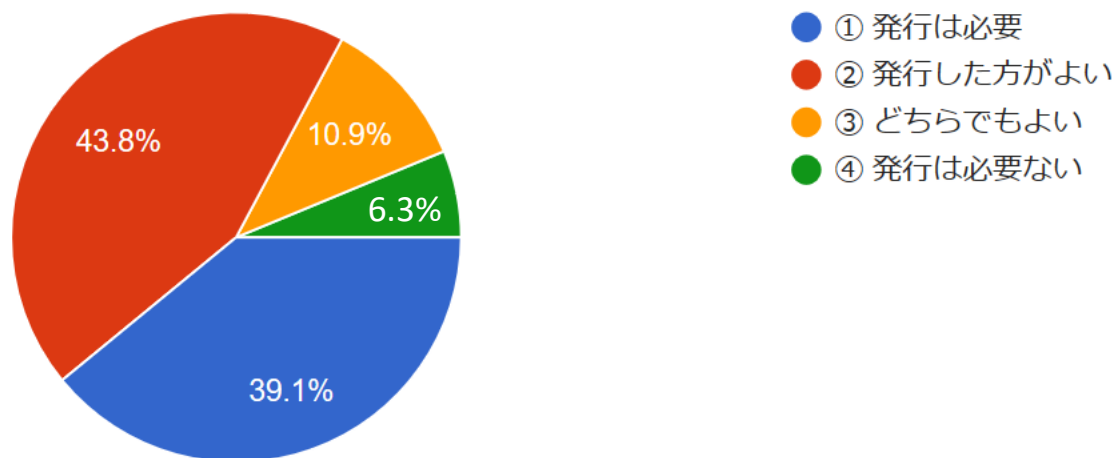
方法:Google formによるアンケート実施

回答数: 64件(アンケート依頼メール291件発出)

1. 日本粘土学会の事業としての英文誌の発行について

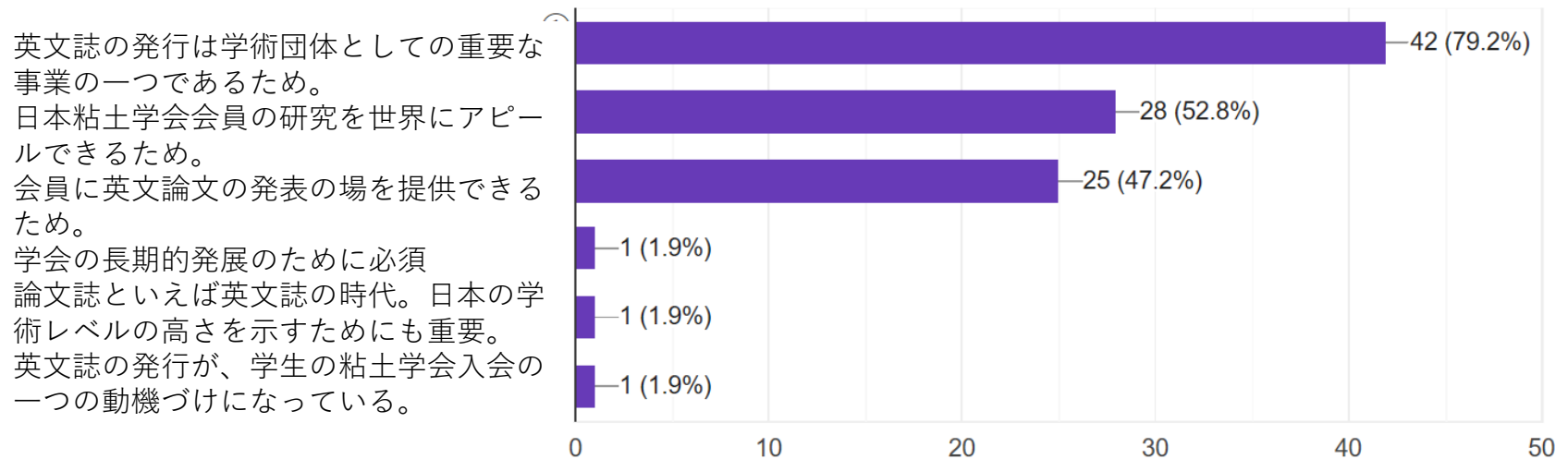
(1) 日本粘土学会の事業として英文誌の発行を行う必要があると考えますか。

64 件の回答



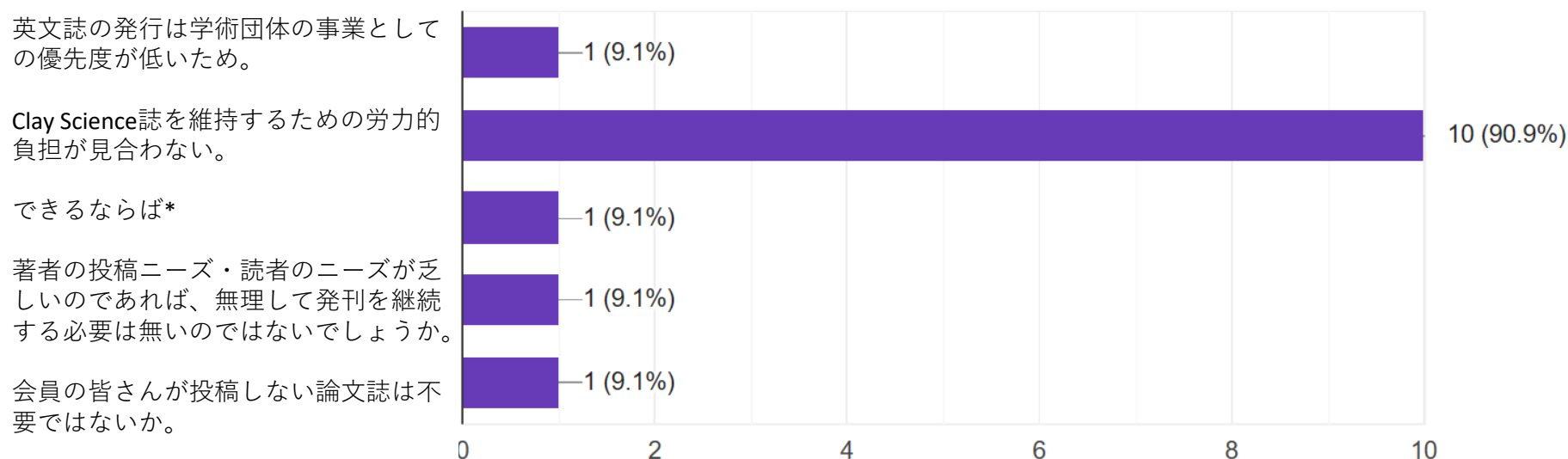
(2) (1)で①あるいは②と回答された方に質問です。発行は必要/発行した方がよい理由をお答えください(複数回答可)。

53 件の回答



(3) (1)で③あるいは④と回答された方に質問です。どちらでもよい/発行は必要ない理由をお答えください(複数回答可)。

11件の回答

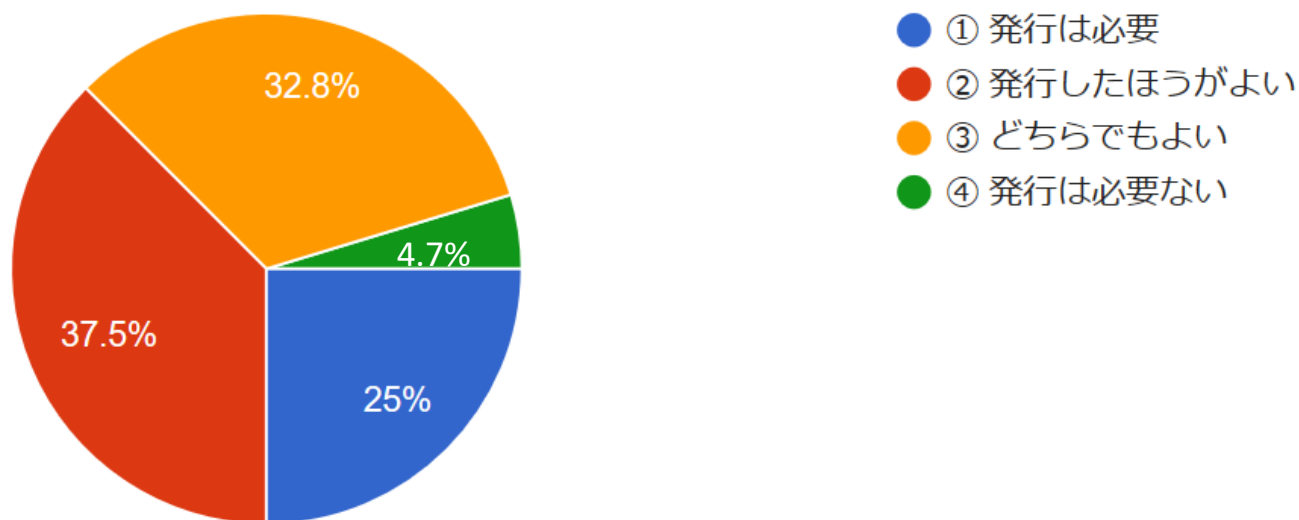


*できるならば発行した方がよいと思う。しかし、現在に至る投稿状況は、学会員がClay Science誌を必要としていないか、もしくは仮に必要としていても学会として維持する実力がないことを示している。また、この状況の早急な改善を望めない。Clay Scienceを取り巻く状況を冷静に見たとき、学会のリソースを沈みゆく船に注ぎ込むことは合理的ではない。

2.学術雑誌を利用する立場からの英文誌の発行について

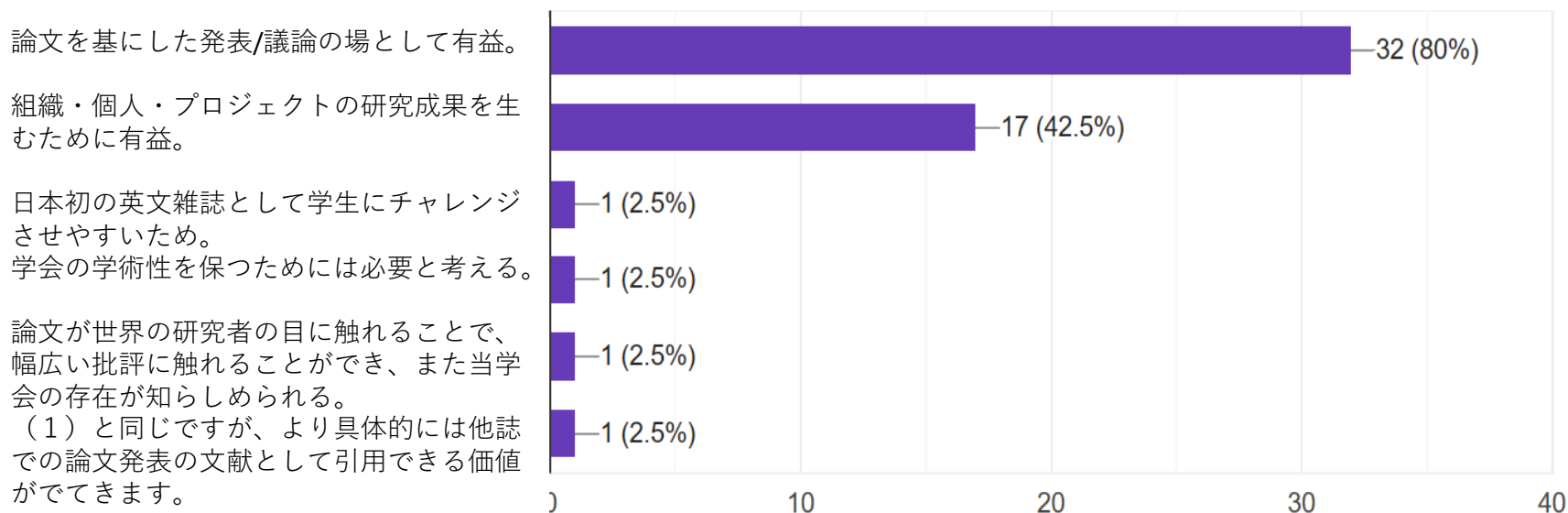
(1) 学術雑誌を利用する立場から見て、Clay Scienceの発行は必要ですか。

64 件の回答



(2) (1)で①あるいは②と回答された方に質問です。英文誌が必要/あった方がよい理由をお答えください(複数回答可)。

40 件の回答



(3) (1)で③あるいは④と回答された方に質問です。英文誌がどちらでもよい必要ない理由をお答えください(複数回答可)。

24 件の回答

関連論文誌はClay Science誌以外にもある。

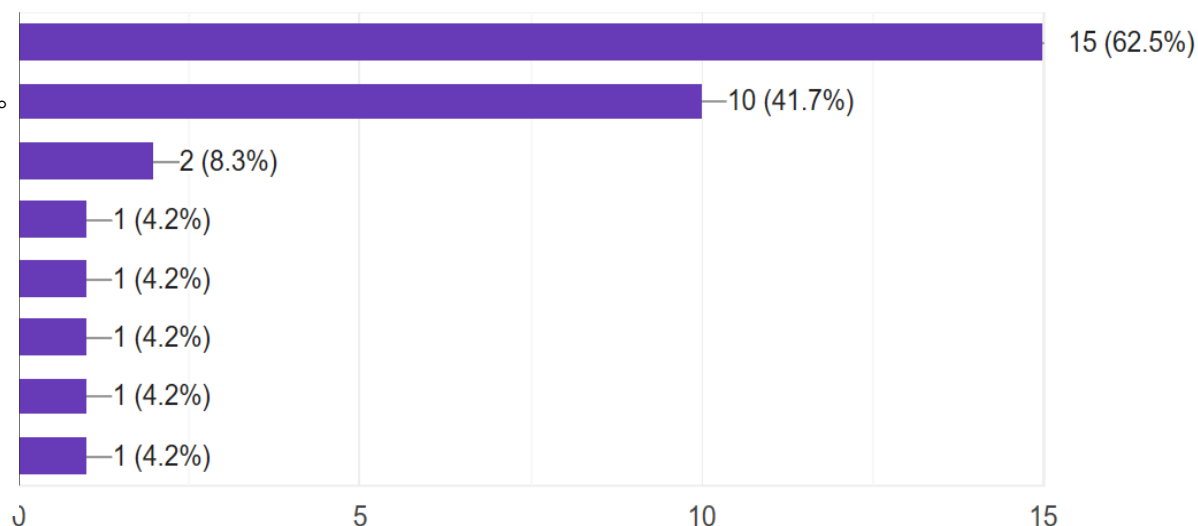
Clay Science誌に掲載されてもあまり評価されない。

ページチャージが必要であるため。

発行されている方がよいと思うが、*
粘土科学誌を和文または英文のいずれでも投稿可
にできないか？
英語が苦手なので

電子版のみを発行してもよい

「学術誌を利用する」という観点**



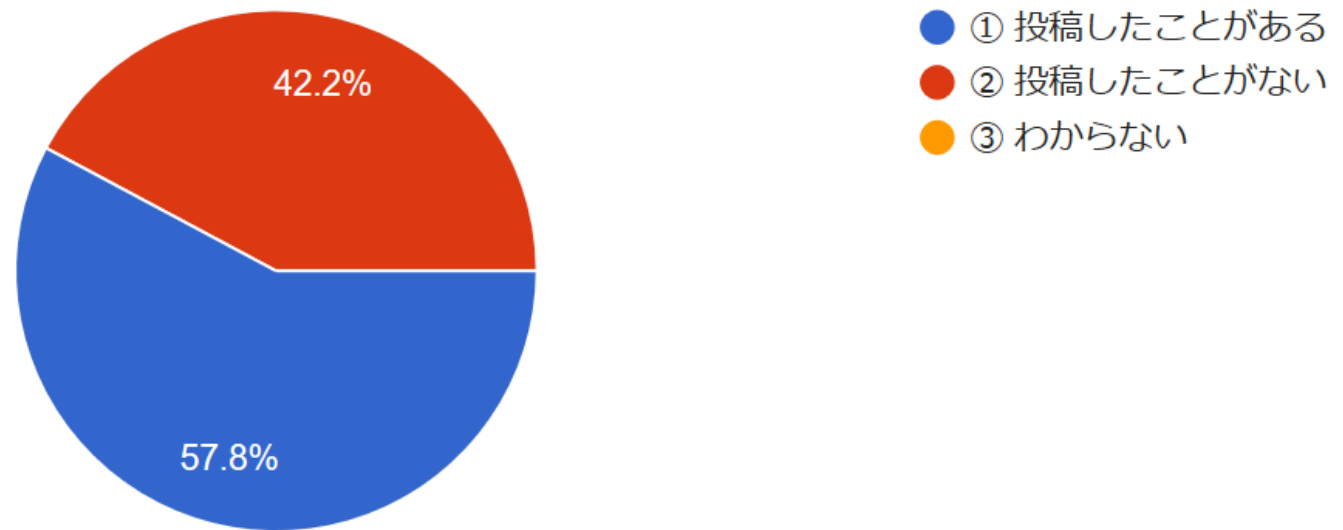
*発行されている方がよいと思うが、インデックスに収載されていない現状では、所属機関の研究業績にもカウントされないため、博士課程学生が論文を出せないときの救済、成果報告等におけるエビデンスなど、限定的な目的での投稿に限られており、発行されなくなっても代替手段は確保可能である。

**「学術誌を利用する」という観点からのみ見ると他にも発表の場はあるので不要と考えることもできる。しかしそれを言うなら、大部分の学会員にとっては年度学会がメインの学会ではないと思われるので、粘土学会そのものがあってもなくてもいいということになるかもしれない。

3.Clay Science誌の利用について

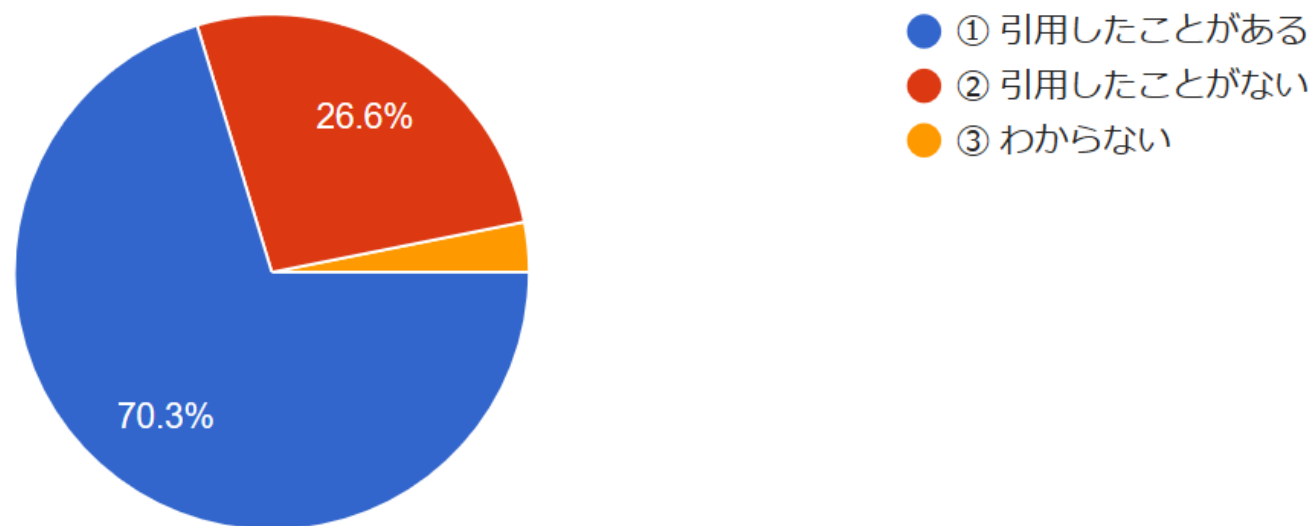
(1) 著者として投稿したことがある著者として投稿したことがありますか。

64 件の回答



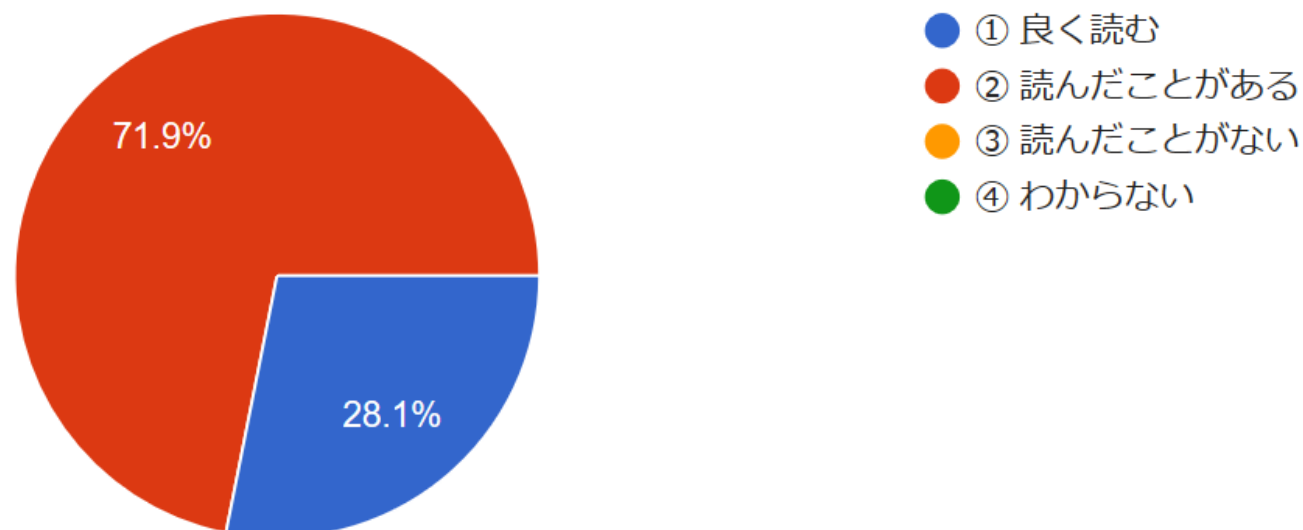
(2) Clay Scienceに掲載されている論文を引用したことがありますか。

64 件の回答



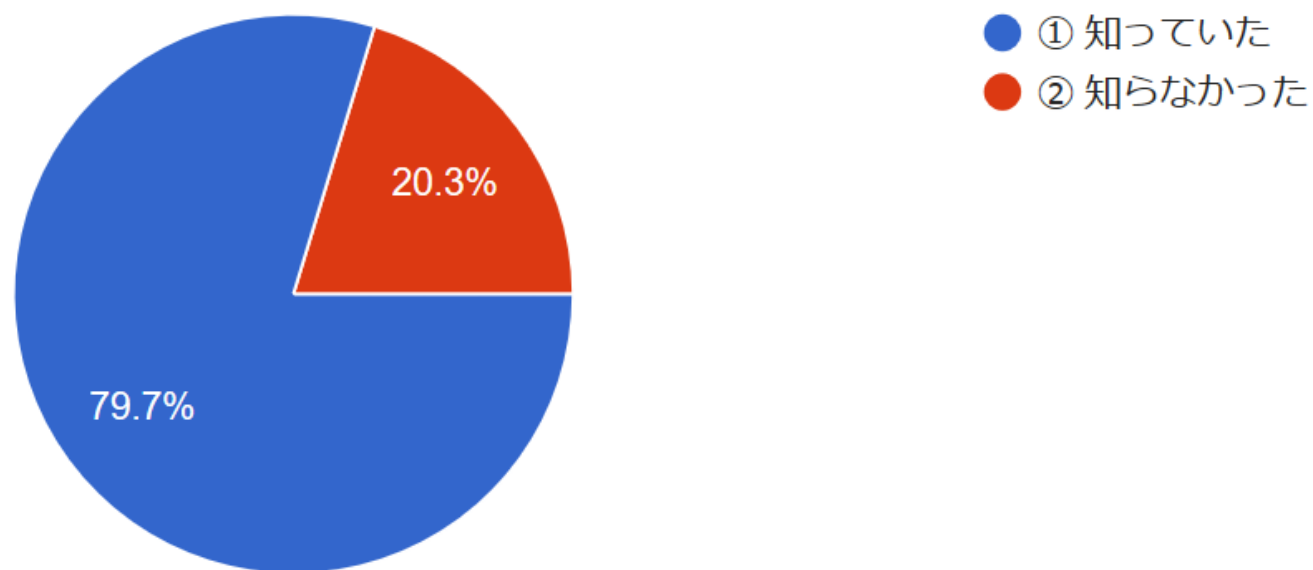
(3) Clay Scienceに掲載されている論文を読んだことがありますか。

64 件の回答



(4) Clay Science誌はJ-Stageのオープンアクセスであることを知っているか

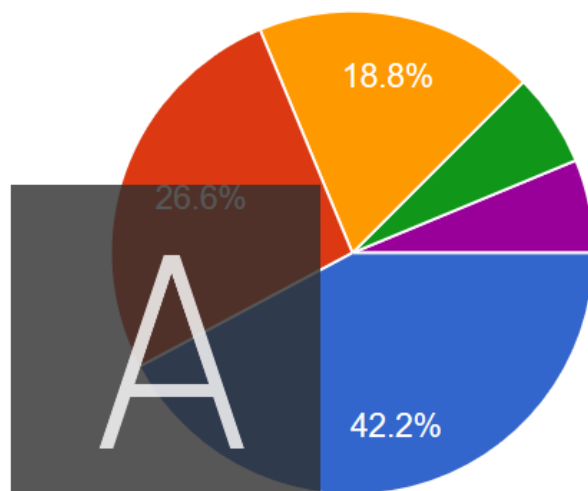
64 件の回答



4. Clay Science誌のインデックス登録について

(1) Clay Science誌のインデックス登録に向けての取り組みを支持するか

64 件の回答



- ① 進めるべき
- ② どちらかと言えば進めるべき
- ③ どちらともいえない
- ④ 進める必要はない
- ⑤ わからない

5. Clay Science誌の将来について

(1) Clay Science誌の将来についてのご意見がありましたらお聞かせください。

26 件の回答

頑張ってください

学会の将来を左右するものと考えます

Asia圏の研究者の投稿を呼び込むべきであるが、投稿原稿をpublishできうるレベルに持っていく必要があるため、多数のassociate editorによる援助が必要と思われる。

多数の電子ジャーナルが乱立する昨今において、優良論文が集中するジャーナルとそうでないジャーナルの格差は益々広がっている。現状で状況の良くない論文誌については、関連学会誌との合併等で運営の効率化をはかっても良いのでは無いか。

英語論文誌は、外国に向けた学会の顔なので無くすのは良くないと思う。かといって頑張って投稿数を増やすのも難しいとも思う。なので、頑張らずに長く細く続けて行く道を探すのがいいと思う。

エディタ、レフリーが投稿件数を気にせずリジェクトできる雑誌になってほしい。

原著論文誌として生き残るならばインデックス登録は必須である。インデックス登録をめざさないのであれば、維持をあきらめ、粘土科学との統合、解説や学会ニュース中心の情報誌とするのがよいと考えられる。

関連する学術誌との差別化がはかれないのなら、無理に維持する必要はない。

できれば継続的に発行していった欲しいが、運営側に大きな負担がかかり続けるのであれば、どこかで思い切った判断が必要だと思います。

粘土科学誌を和文・英文いずれでも投稿可にし、年間刊行回数を4回以上にしては如何でしょうか。

もう少し広い範囲の論文を集めた方が良い

廃刊止むなし 国際情勢を認識すべきである

学会員内への公開という色が強いように思われるため、より広く外部へ公開する手段・方法をとらなければ、今後発行していく意味が弱いと考える。

海外からの投稿を増やすにはまず雑誌自体の価値を高めなければなりません。会員の投稿を促す何らかの施策が必要と考えます。

Original articlesのみならず、Review,やAccounts, short note (Communication, letter, etc)なども受け付ける

毎回雑誌が薄く、論文数が少ないのが気になっていました。発行回数を少なくしてもいいと思います。

インデックス登録をぜひ進めていただきたい。

日本粘土学会が英文誌を維持するには、会員数も活力も不足であり、難しいと思う。他の学会誌への統合などを考えるべきと思う。

投稿数を確保するのは大変だと思いますが、一度絶やしてしまうと再開は困難だと思います。関係各位にはご苦勞をおかけしますが、継続していただきたいとおもいます。

国内や東アジアなどの関連学会と連携した発行を考えていくのもありうるかと思います。

英文により海外からの投稿も増え有益であると考えられる。

可能な限りインデックス登録は進めるべきであると思います。

粘土科学誌の方で英文アブストラクトをもっと充実させて海外の方にも参照されやすいような格好にして、結果clay sci.誌を含むような格好で1誌に集約というのもありでしょうか？

日本粘土学会は世界有数の粘土学会であるので、縮み志向にならず何とか英文誌が発展することを希望する。

今のままではこの分野の情報源になってないので将来はないと思う。

IFをつけていくことが重要であると思います。

(2) その他、ご意見がありましたらお聞かせ下さい。

14 件の回答

インデックスに登録されれば、ある程度は軌道に乗せられると考えられる。問題は、そこまでの数年間、学会員一丸となって耐え忍ぶ（自身の他誌論文を少し減らしてでも学会に協力する）覚悟を持てるかだと思われる。

会員数を増やすことが重要。そのためには粘土科学を充実する必要がある。大学関係者ならともかく、企業一般広範囲の人が興味を持つためには日本語の雑誌を充実しないと入会する気が起きないため。

粘土科学誌に一度掲載して頂いたのみで、貴会への貢献もなく大変申し訳なく思っています。

編集の方ご苦労様です。

内容自体は比較的専門性が高く興味深いため、日本化学会等の他学会の場も活用してClay Scienceをより広めていただきたい。

財政面でなかなか大変であると拝察します。編集に携わる方々に感謝します。CCMやAppl. Clay Sci.に後れをとっていますが、アジアの粘土研究に中心地が日本であることを示す意味でも頑張って頂きたい。執筆者をアジア各国にも求め、asian clayなどでも積極的に宣伝・勧誘などして頂ければと思います。

企業で粘土鉱物の分析をしているものです。研究開発をせず同定をメインで行っているため、論文誌の投稿は難しいです。しかし、同定する際に学術誌を読むのは大変勉強になります。是非発行を続けてほしいと思います。

Clay Scienceの編集発行情報（例えば、投稿の勧誘、掲載論文の目次やアブストラクトなど）をメール配信して、Clay Scienceの存在感をもっとアピールしてはいかがでしょうか。

邦文の投稿についても英文に並行して継続すべき。

掲載料が無料の方が投稿件数が増加するのではないのでしょうか？

先日アンケートをさせていただいたときは、Clay Science誌は発行を継続した方が良いとの意見でしたが、先般考え直し「無理してまで発刊を継続する必要はないのではないか」との思いに至りましたので、ここに訂正させていただきます。

ドメスティックで小さな学会はどこの分野でも同じような問題を抱えていると想像します。隣接する分野がまとまって大きくなれば少しはこの問題もマシになるとは思いますが、、、。

大学を退職した身であるので、あまりアクティブではないが、掛け声をかけていただければ投稿数増加には協力できると思う。

日本から世界に発行する論文誌は存在意義があると思う。でも投稿が無いのであれば維持できない。同じようなことは他の学会誌でも見られる。学会幹部の意識が重要と思う。だからアンケートしたのでしょう。でもアンケートする以前に自ら投稿されたいかがでしょうか？